

証券コード：7575

第37期
報告書

平成28年4月1日 ▶ 平成29年3月31日

...for patient comfort.

JL Japan Lifeline

主要連結財務データ

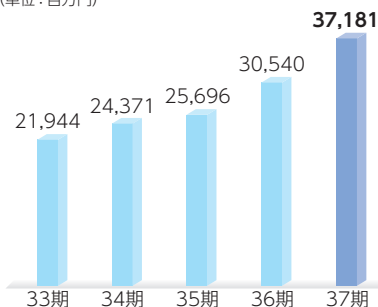
Financial Highlights

当期決算のポイント

- ・ 全品目区分において売上が好調に推移
- ・ 自社製品・仕入商品ともに売上総利益率が改善
- ・ 売上高増加に伴う販管費比率の低下により大幅増益

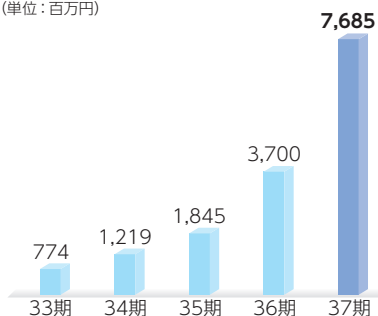
売上高

(単位: 百万円)



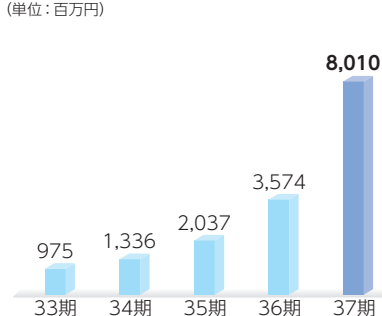
営業利益

(単位: 百万円)



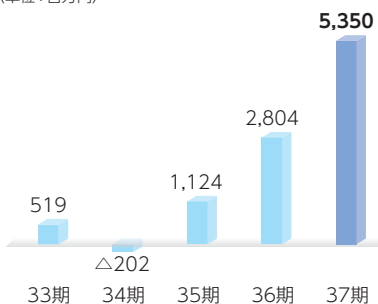
経常利益

(単位: 百万円)



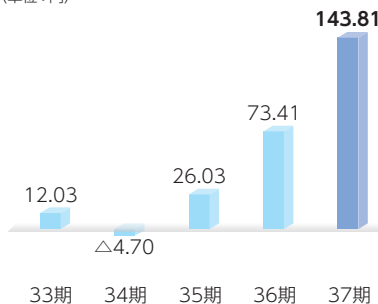
親会社株主に帰属する当期純利益

(単位: 百万円)



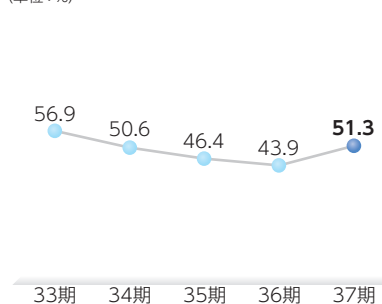
1株当たり当期純利益

(単位: 円)



自己資本比率

(単位: %)



当社は平成27年10月1日及び平成28年12月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。33期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり当期純利益」を算定しております。



ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期は市場の拡大を背景として自社製品が引き続き伸長したほか、仕入商品におきましても各事業領域で昨年上市した新商品が寄与したことにより、前期に対して大幅な増収増益となりました。

当社では今後も新規性の高い自社製品の開発・製造や仕入商品の導入に向けた取り組みを推進し、中長期にわたる持続的成長を図ることにより、一層の企業価値向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 啓介



当期の業績はいかがでしたか？

A 当期の販売実績といたしましては、リズムデバイスにおきまして昨年3月に導入した全身のMRI(磁気共鳴画像)検査に対応した心臓ペースメーカ「KORA250(コーラ250)」の寄与により、シェア回復が進んだほか、

EP/アブレーションにおいては、心房細動のアブレーション治療の症例数の増加により、当社のオンリーワン製品である心腔内除細動カテーテル「BeeAT(ビート)」をはじめとした心房細動治療の関連製品が伸長いたしました。さらに外科関連におきましては、昨年1月の「AFXステントグラフトシステム」の導入により新規参入した腹部用ステントグラフトが堅調に推移したほか、インターベンションでは昨年2月に導

入した心房中隔欠損閉鎖器具「Figulla FlexII(フィギュラ・フレックスII)」が短期間で高い市場シェアを獲得したことなどにより、当期の連結売上高は、前期に比べ21.7%の増収となりました。

損益面におきましては、公道価格の改定が実施されたものの、自社製品の原価の改善や、仕入商品における収益性の高い新商品の売上構成比の上昇により、売上総利益率は前期に比べ2.7ポイント改善いたしました。この結果、売上総利益の増加により、自社製品の開発関連費用や業容拡大に伴う物流関連の業務委託費用等の販売費及び一般管理費の増加を吸収し、営業利益は前期に比べ107.7%の大幅増益となりました。



スーチャレス生体弁「PERCEVAL」

Q 次期の見通しについて教えてください。

A 平成30年3月期におきましては、全般的に症例数の増加が予想されるなか、公道価格の改定が行われないことから、オンリーワン商品をはじめとして販売数量増による増収を見込んでおります。また、第4四半期には、来年以降の業績への寄与が期待される仕入商品の導入を予定しております。まず、EP/アブレーションではバルーンテクノロジーを用いた内視鏡アブレーションシステム「HeartLight(ハートライト)」、外科関連では縫合が不要なスーチャレス生体弁「PERCEVAL(パーシバル)」、そしてインターベンションでは本年2月に独占販売契約を締結した薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro(オシロ)」の上市を計画しております。これらは、競合製品と差別化を図ることができる特長を有しており、患者様や医療現場に付加価値を提供できるものと考えております。

また損益面につきましては、自社製品及び仕入商品とも高収益品の伸長が見込まれることにより、売上総利益率がさらに改善される見通しであり、自社製品の開発費用や新商品導入に伴う広告宣伝費等の費用が増加するものの、引き続き増益を見込んでおります。

■ 2018年3月期業績予想

売上高	41,828百万円(前期比12.5%)	▲
営業利益	9,472百万円(前期比23.3%)	▲
経常利益	9,604百万円(前期比19.9%)	▲
親会社株主に帰属する当期純利益	6,684百万円(前期比24.9%)	▲



中長期の展望や課題について教えてください。

A 本年5月に中期計画の更新を行い、2022年3月期に売上高662億円、営業利益率25%を目指しております。今回の更新においては、引き続き心房細動のアブレーション治療の症例数増加を背景に、自社製品を中心としたアブレーション治療の関連製品の一層の成長のほか、腹部用ステントグラフトの次世代商品や末梢用ドラッグコーティングバルーン等の大型商品の寄与を見込んでおります。自社製品だけでなく、各事業領域において付加価値の高い仕入商品を導入することで、全社として安定した成長の実現に努めてまいります。

中期的な課題として、これまでに培った自社製品の技術を循環器以外の領域に応用することによる新たな成長機会の創出や自社製品の本格的な海外展開を見据えた取り組みにも着手してまいります。さらに、これらを実現するための基盤となる自社製品の開発・生産体制の一層の強化を図ってまいります。

中期を見据えたこれらの取り組みを通じて、海外の最先端の医療機器を国内へ迅速に導入する商社としての役割と、医療現場のニーズを的確に反映した製品を開発・製造するメーカーとしての役割を果たし、患者様や医療現場へ価値ある医療機器を提供できるよう努めてまいります。

Topics

薬剤溶出型冠動脈ステントに関する独占販売契約を締結

当社は本年2月にバイオロニック社と自社製の薬剤溶出型冠動脈ステント(DES*)「Orsiro」に関する日本国内における独占販売契約を締結し、現在、平成30年3月期の第4四半期の上市を目指し、導入準備を進めております。DESはPCI*治療における主要な医療機器であり、バルーンカテーテルやガイドワイヤー等の自社製品と合わせ、PCI治療をトータルにサポートしてまいります。



商品名：「Orsiro(オシロ)」

【特長】

- ・生体吸収性ポリマーを用いた第3世代ステント
- ・業界最薄ステントが高いデリバリー性と血管損傷の低減に貢献
- ・ハイブリッドコーティングが効果的に再狭窄を抑制

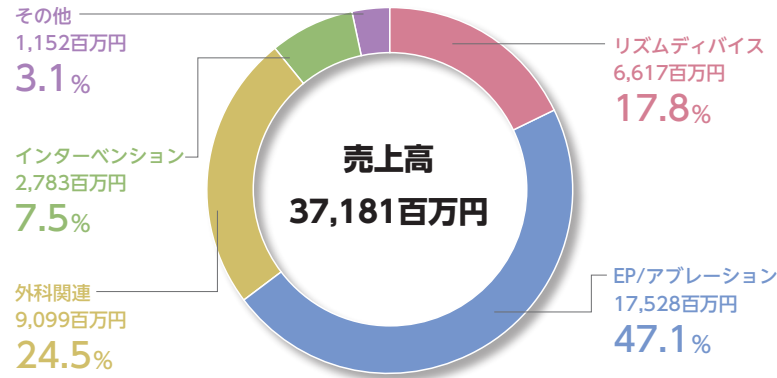
*DES : Drug-Eruting Stent

*PCI : Percutaneous Coronary Intervention(経皮的冠動脈形成術)

品目別売上高

Sales By Product

当社では心臓循環器領域の幅広い疾患に対応する医療機器を扱っており、国内外のメーカーから仕入れた商品のほか、自社グループ製品としてEPカテーテル、アブレーションカテーテル、バルーンカテーテル、ガイドワイヤーおよび人工血管等を販売しております。



リズムデバイス 不整脈を治療する 植込み型の医療機器を扱う

売上高構成比
17.8%

心臓ペースメーカーにおきましては、昨年3月より販売を開始した、全身のMRI(磁気共鳴画像)撮像が可能な、心臓ペースメーカー[KORA250]が伸びました。ICD(植込み型除細動器)におきましては、小型で長寿命な新商品[PLATINIUM]の販売数量が増加いたしました。以上により、リズムデバイスの売上高は、66億1千7百万円(前期比19.1%増)となりました。

主要取扱品目

- 心臓ペースメーカー
- ICD(植込み型除細動器)
- CRT-D(除細動機能付き両心室ペースメーカー)



売上高(単位:百万円)



EP/アブレーション 不整脈の検査や治療を行う 電極カテーテルを扱う

売上高構成比
47.1%

EPカテーテルにおきましては、心房細動のアブレーション治療の症例数増加を背景として、オンリーワン製品である心腔内除細動カテーテル[BeeAT]や食道温モニタリングシステム専用カテーテル[Esophastar]等が引き続き伸びました。また、仕入商品としては、国内では当社のみが販売する高周波心房中隔穿刺針[RFニードル]の販売数量が増加いたしました。以上により、EP/アブレーションの売上高は、175億2千8百万円(前期比22.0%増)となりました。

主要取扱品目

- EP(電気生理用)カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 心腔内除細動カテーテル
- 食道温モニタリングカテーテル
- 高周波心房中隔穿刺針



売上高(単位:百万円)



外科関連

血管や心臓の弁を置き換え
治療する医療機器を扱う

売上高構成比
24.5%

主要取扱品目

- 人工血管
- オープンステントグラフト
- ステントグラフト
- 人工心臓弁
- 人工弁輪



人工血管関連におきましては、ステントグラフトに関して、従来からの胸部用の商品に加えて、昨年1月に新たに発売した腹部用の商品である[AFXステントグラフトシステム]の販売数量が増加いたしました。さらに、当社のオンリーワン製品であるオープンステントグラフト[J-Graft FROZENIX]も、治療の低侵襲化に寄与する医療機器として普及が進みました。以上により、外科関連の売上高は、90億9千9百万円(前期比27.1%増)となりました。

売上高(単位:百万円)



インターベンション 心筋梗塞等を治療する カテーテル等の医療機器を扱う

売上高構成比
7.5%

バルーンカテーテルおよびガイドワイヤーにおきましては、保険償還価格引き下げの影響により売上高は減少いたしました。その他の品目におきましては、貫通用カテーテル[Guideliner]が堅調に推移したほか、昨年2月より販売を開始した心房中隔欠損閉鎖器具[Figulla FlexII]が医療現場で高く評価され伸びました。以上により、インターベンションの売上高は、27億8千3百万円(前期比23.6%増)となりました。

主要取扱品目

- バルーンカテーテル
- ガイドワイヤー
- 貫通用カテーテル
- 心房中隔欠損閉鎖器具



売上高(単位:百万円)



その他

連結子会社で販売する
血液浄化装置等の医療機器

売上高構成比
3.1%

連結子会社で販売する血液浄化関連商品等のその他の売上高は1億5千2百万円(前期比4.0%減)となりました。

主要取扱品目

- 血液浄化関連商品



売上高(単位:百万円)

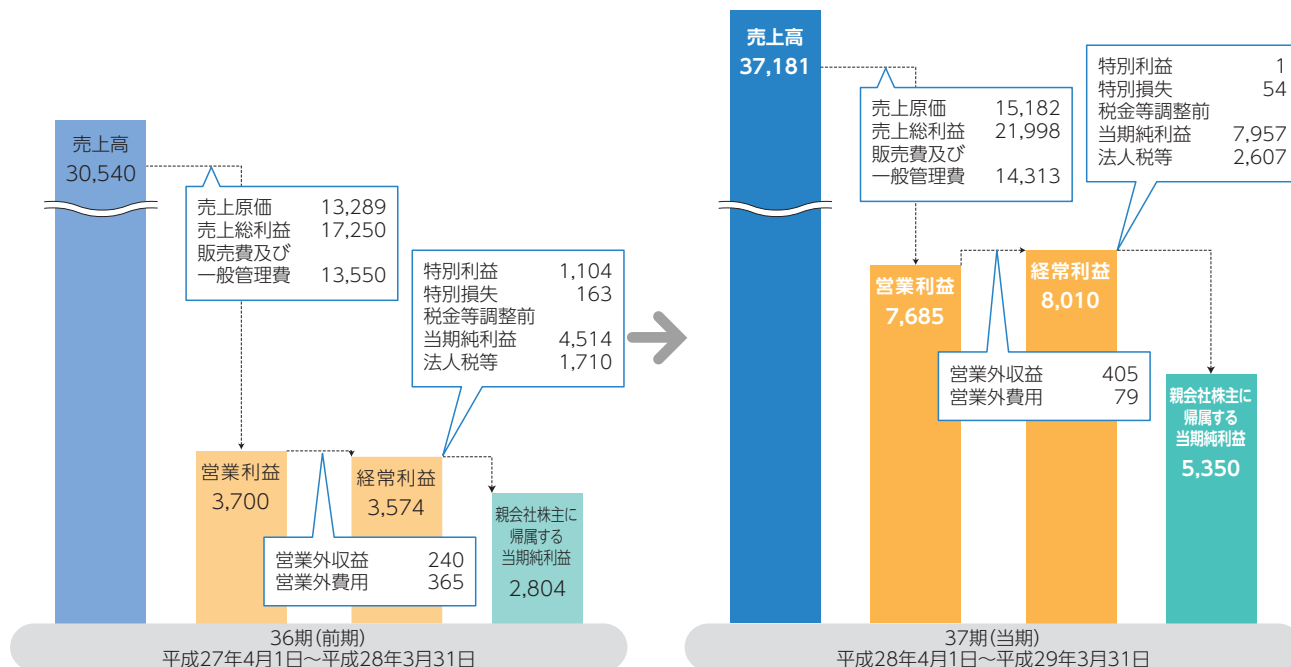


連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



営業利益

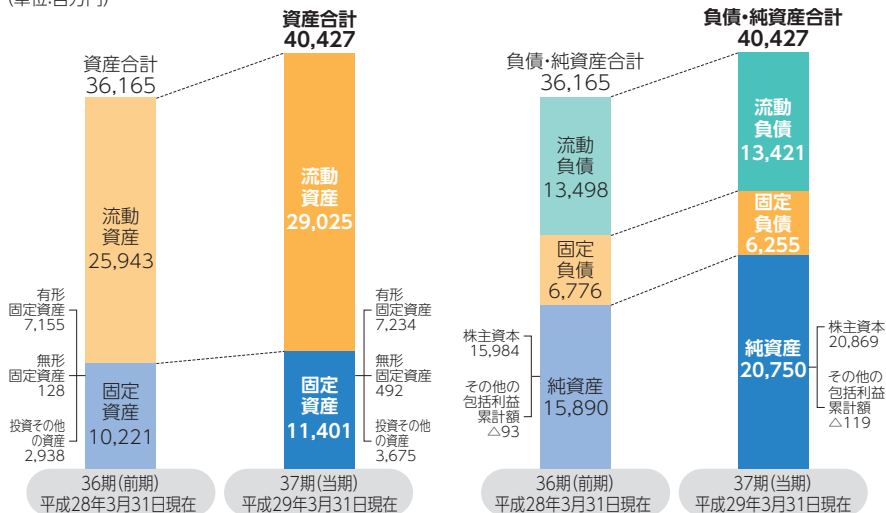
自社製品において、原価の改善や収益性の高い製品の販売が伸長していることに加え、仕入商品においても、収益性の高い新商品の売上構成比が上昇したことにより、売上総利益率は前期に比べ2.7ポイント改善いたしました。販売費及び一般管理費におきましては、自社製品の開発関連費用のほか、業容拡大に伴う物流やシステム関連の業務委託費用等が前期に比べ増加したことなどにより、営業利益は76億8千5百万円(前期比107.7%増)となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益

受取利息および為替差益等の営業外収益を4億5百万円、支払利息等を営業外費用として7千9百万円計上、また、固定資産売却益を特別利益として1百万円計上した一方、固定資産売却損及び固定資産除却損等を特別損失として5千4百万円計上したことから、当期の親会社株主に帰属する当期純利益は53億5千万円(前期比90.8%増)となりました。

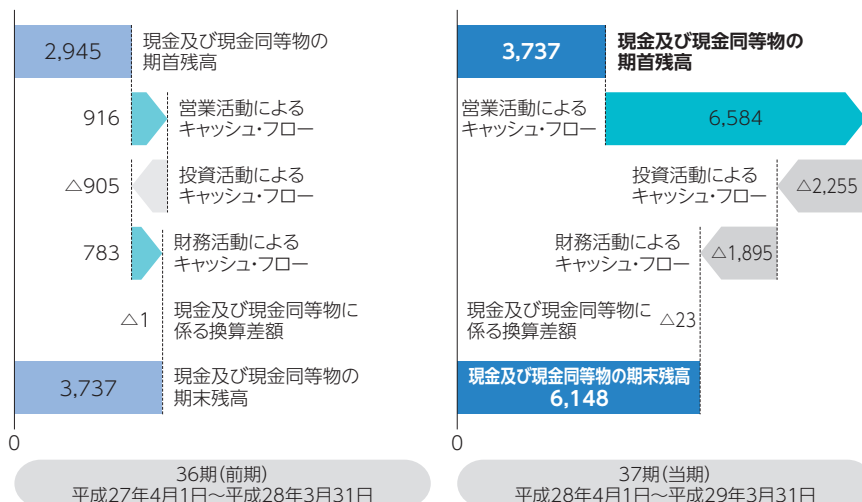
■ 連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



流動資産

現金及び預金が24億1千万円、受取手形及び売掛金が9億3千8百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ30億8千2百万円増加し、290億2千5百万円となりました。

流動負債

未払法人税等が3億4千4百万円増加した一方で、短期借入金等が7億7千2百万円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ7千6百万円減少し、134億2千1百万円となりました。

固定負債

長期借入金が5億5千4百万円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ5億2千1百万円減少し、62億5千5百万円となりました。

営業活動による キャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益が34億4千2百万円増加した79億5千7百万円を計上したことに加え、仕入債務の増加による収入が2億8千9百万円となり、その一方で、その他が前年同期に比べ21億9千3百万円減少した1億3千7百万円の収入となったこと等から、前連結会計年度に比べ56億6千8百万円増加し、65億8千4百万円の収入となりました。

会社概況

Corporate Data

■ 会社概要

(平成29年3月31日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	昭和56年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結829名 単体661名
上場取引所	東京証券取引所 第一部
連結子会社	JUNKEN MEDICAL株式会社 SYNEXMED(HONG KONG)LTD. 心宜医療器械(深圳)有限公司

(注)平成29年4月1日付で当社はJUNKEN MEDICAL株式会社を吸収合併いたしました。

■ 役員

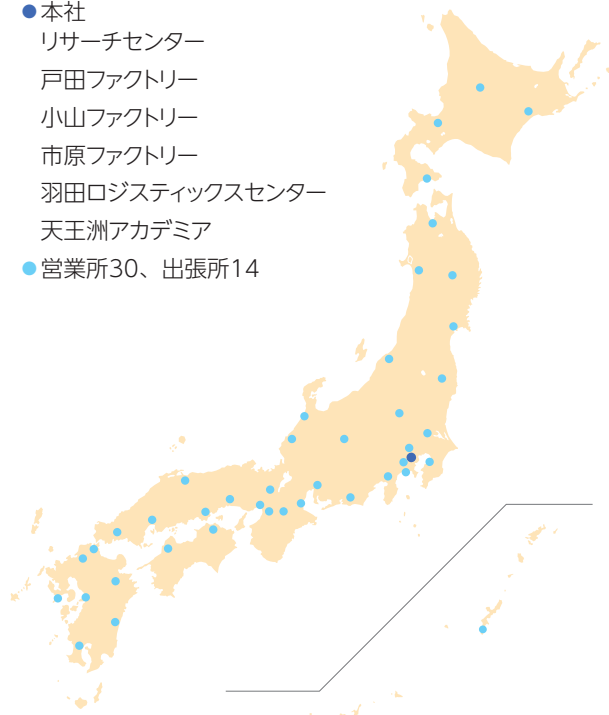
(平成29年6月28日現在)

代表取締役社長 鈴木 啓介	取締役 高宮 徹
代表取締役副社長 鈴木 厚宏	取締役 出井 正
常務取締役 高橋 省悟	社外取締役 佐々木文裕
取締役 黒沼 孝之	社外取締役 池井 良彰
取締役 野上 和彦	常勤監査役 神谷 安恒
取締役 山田 健二	社外監査役 中村 勝彦
取締役 渡辺 修	社外監査役 浅利 大造

■ 事業所

(平成29年6月1日現在)

- 本社
リサーチセンター
戸田ファクトリー
小山ファクトリー
市原ファクトリー
羽田ロジスティックセンター
天王洲アカデミア
- 営業所30、出張所14



最新の会社情報およびIR情報は当社ホームページをご覧ください

<http://www.jll.co.jp/investors/>

当社の最新ニュース、製品案内および財務情報等の株主・投資家の皆様向けの情報をご覧ください。

✉ 投資家情報メールマガジン

“IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。



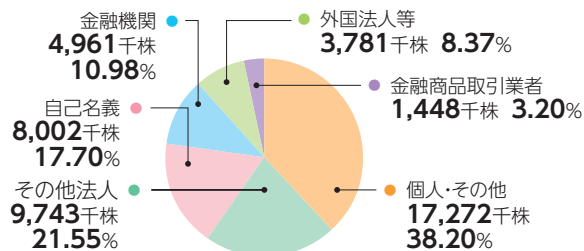
株式の状況 (平成29年3月31日現在)

発行可能株式総数	173,200,000株
発行済株式の総数	45,209,988株
株 主 数	10,555名

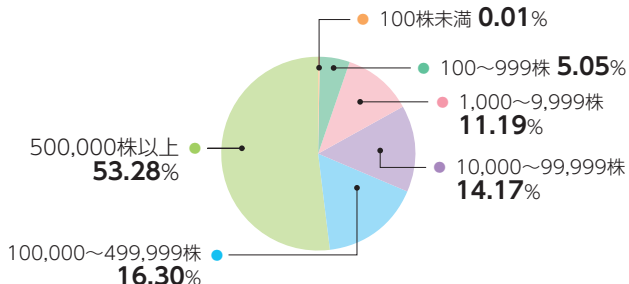
大 株 主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	4,930	13.25
KS商事株式会社	4,384	11.78
片山晃	2,258	6.07
鈴木啓介	1,325	3.56
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,183	3.18
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	793	2.13
日本ライフライン従業員持株会	673	1.81
上田勝啓	536	1.44
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	464	1.25
資産管理サービス信託銀行 株式会社(証券投資信託口)	402	1.08

所有者別株式分布



所有数別株式分布



(注)持株比率は、自己株式(8,002,808株)を控除して計算しております。

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL http://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
〈お問合せ先〉	0120-232-711 (通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	http://www.tr.mufg.jp/daikou/

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等
 - ▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
 - ▶特定口座に記録された株式をお持ちの株主様
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金について
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <http://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。